

南アメリカ・オセアニア 州

名前

問1 南アメリカ大陸のアルゼンチン共和国の首都ブエノスアイレス周辺には、肥沃な土壌を持つ広大な温帯の平原が広がっています。この平原では、温暖な気候を活かした小麦の栽培や牛の放牧が盛んに行われていますが、この地域の名称として正しいものを選びなさい。（2019年 山形県公立入試 類似）

1. パンパ
2. プレーリー
3. グレートプレーンズ
4. セルバ

問2 南半球に位置するオーストラリア大陸を含む州について、その特徴を説明したものとして適切なものを選びなさい。（2018年 和歌山県公立入試 類似）

1. 北アメリカ州と呼ばれ、北半球の広大な面積を占める。
2. アジア州と呼ばれ、日本や中国などの東アジア地域と陸続きである。
3. オセアニアと呼ばれ、ニュージーランドや太平洋の島々が含まれる。
4. ヨーロッパ州と呼ばれ、アルプス山脈などの険しい山々が連なっている。

問3 森林の中で多様な樹木や農作物を組み合わせて栽培する農法が、単一の作物を栽培する方法に比べて優れている理由として、最も適切な記述はどれですか。（2022年 宮崎県公立入試 類似）

1. 種類の作物に絞って栽培することで、肥料や農薬にかかる費用を大幅に削減できるため。
2. 土地を定期的に焼き払って灰を肥料にすることで、作物の成長スピードを早めることができるため。
3. 大型の農業機械を一斉に投入することが可能になり、作業効率を極限まで高められるため。
4. 複数の作物を栽培することで病害虫の蔓延や土壌の流失を防ぎ、安定した収穫や費用の削減が可能となるため。

問4 南アメリカ大陸に位置するインカ帝国の遺構「マチュ・ピチュ」と、オーストラリア大陸に位置する「ウルル（エアーズロック）」について、それぞれの特徴や背景を説明した文として最も適切なものを選択してください。（2017年 山形県公立入試 類似）

1. マチュ・ピチュはアボリジニの聖地として知られる地形であり、ウルルはスペイン人の侵攻によって滅びた文明の首都である。
2. マチュ・ピチュは高い技術による石造りの都市遺構であり、ウルルは自然景観としての価値に加え、先住民の信仰の対象という文化的価値も持っている。
3. マチュ・ピチュはオーストラリア大陸の乾燥地帯で見られる遺跡であり、ウルルは南アメリカ大陸の熱帯雨林の中に位置している。
4. マチュ・ピチュは広大な平原にそびえる巨大な岩石の名称であり、ウルルはアンデス山脈の斜面に築かれた石造りの城塞である。

問5 オーストラリアの先住民族であるアボリジニに関する説明として、彼らの文化や歴史の背景をふまえて述べたものとして最も適切なものはどれですか。（2023年 北海道公立入試 類似）

1. 18世紀以降にヨーロッパから入植してきた人々によって、新しい伝統として点描画の技法が伝えられた
2. 点描を用いた独自の芸術活動など、古くから受け継がれてきた伝統文化を大切に継承している
3. 現在は都市部での生活が中心となっており、伝統的な芸術活動は完全に行われなくなっている
4. ニュージーランドを中心に生活しており、ラグビーの試合前に行う「ハカ」という舞踊で知られている

問6 太平洋の北緯20度付近に位置するハワイなどの島々において、伝統的に行われてきた食文化の説明として、最も適切なものはどれか。（2022年 岡山県公立入試 類似）

1. トウモロコシの粉で作った薄いパンに肉をのせ、唐辛子のソースをかける。
2. 野菜や肉の具材を小麦粉の薄い生地で包み、油で揚げたり鉄板で焼いたりする。
3. タロいもや肉をバナナの葉で包み、地中の熱などを利用して蒸し焼きにする。
4. 乾燥させたジャガイモを水で戻し、肉や野菜とともに煮込んでスープにする。

問7 オセアニアに位置する島国のトンガは、日本の卸売市場において国内産かぼちゃの出荷が減少する11月から1月にかけて、集中的にかぼちゃを輸出しています。このように、相手国の需要が高まる時期に合わせて農産物を供給する工夫に関連して、トンガが位置する半球と、その地理的特徴の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2019年 大分県公立入試 類似）

1. 南半球に位置し、日本とは季節が反対になる。
2. 北半球に位置し、日本とは季節が同じになる。
3. 東半球に位置し、日本とは日付変更線を挟んで隣り合う。
4. 西半球に位置し、日本とは昼夜が反対になる。

問8 オーストラリアの貿易構造の変化について、1960年には輸出総額の約26%をイギリスが占めていましたが、2020年の統計では中国が40%に達し、次いで日本や韓国が上位に入るようになりました。このような輸出相手国の変化について述べた文として、最も適切なものはどれですか。（2025年 福岡県公立入試 類似）

1. アメリカ合衆国の経済成長に伴い、2020年時点ではアメリカが中国を抜いて最大の輸出相手国となった。
2. イギリスの欧州連合（EU）離脱により、旧宗主国としての経済的結びつきが1960年当時よりも強まった。
3. 南太平洋の島々との貿易を優先するため、アジア諸国への輸出割合を意図的に引き下げた。
4. 地理的に近いアジア諸国の経済発展に伴い、貿易の軸足がヨーロッパからアジアへと移り変わった。

問9 オセアニアの島々において、タロいもなどをバナナの葉で包み、地中の熱を利用して蒸し焼きにする調理法が発展した背景について述べたものとして、最も適切なものはどれか。（2022年 岡山県公立入試 類似）

1. 寒冷な気候において、地下の凍土を利用して食材を凍結乾燥させ、保存性を高める必要があったため。
2. 高地で水の沸点が低く、食材に火が通りにくいため、地中の圧力を利用して煮込む必要があったため。
3. 熱帯で手に入りやすい大きな葉を包材として活用し、食材の水分を逃さずに効率よく加熱するため。
4. 乾燥した気候で燃料となる木材が不足しているため、太陽光の熱のみで調理を行う必要があったため。

問10 現在の南アメリカ州において、ブラジルではポルトガル語、多くの周辺国ではスペイン語が公用語とされ、宗教面ではキリスト教が広く普及している歴史的な背景を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2024年 岩手県公立入試 類似）

1. 16世紀にインカ帝国の皇帝が、ヨーロッパ諸国との貿易を円滑にするために自らキリスト教への改宗を勧めたため。
2. 宗教改革を逃れた多くの人々が北アメリカから南下し、先住民と協力してキリスト教に基づいた国々を建国したため。
3. 16世紀以降、スペインやポルトガルがこの地域を植民地として支配し、自国の言語や宗教を広めたため。
4. アジアから移住した人々が持っていた仏教やヒンドゥー教の文化が、現地の先住民文化と融合してキリスト教へと変化したため。

問11 かつてイギリスの植民地であったオーストラリアでは、長らく白人以外の移民を制限する政策がとられていました。しかし、1970年代以降、アジアなどからの移民が増加したことを背景に、異なる民族や文化背景を持つ人々がそれぞれの伝統や価値観を尊重し合いながら共に生きる社会を目指すようになりました。このような社会のあり方を何と呼びますか。（2026年 埼玉県公立入試 類似）

1. アバルトヘイト
2. 白豪主義
3. 循環型社会
4. 多文化社会

答え合わせ・解説

問1	答え 1 パンパ	アルゼンチンのラプラタ川流域に広がる温帯草原をパンパと呼びます。この地域は肥沃な黒土（パンパ土）に恵まれており、かつては牧畜が中心でしたが、現在は世界的な小麦の生産地としても知られています。選択肢の「セルバ」はアマゾン川流域の熱帯雨林、「プレーリー」や「グレートプレーンズ」は北アメリカ大陸に位置する平原を指します。
問2	答え 3 オセアニアと呼ばれ、ニュージーランドや太平洋の島々が含まれる。	オーストラリア大陸は世界で最も小さな大陸ですが、周囲の島々と共にオセアニアという一つの州を構成しています。この地域はかつてイギリスなどの植民地だった歴史から、英語を公用語とする国が多く見られますが、近年では地理的に近い日本や中国など、アジア州の国々との経済的な結びつきを強めている点が近年の入試でも重視される特徴です。
問3	答え 4 複数の作物を栽培することで病害虫の蔓延や土壌の流失を防ぎ、安定した収穫や費用の削減が可能となるため。	単一作物への特化ではなく複数の作物を混ぜて栽培することで、特定の病害虫による全滅被害を防ぎ、雨による土壌流失の抑止や肥料・費用の削減など、持続可能な農業経営が可能となります。
問4	答え 2 マチュ・ピチュは高い技術による石造りの都市遺構であり、ウルルは自然景観としての価値に加え、先住民の信仰の対象という文化的価値も持っている。	マチュ・ピチュはインカ帝国がアンデス山脈の急斜面に築いた石造都市であり、当時の高度な石工技術を伝えています。ウルルはオーストラリア大陸に位置する巨大な岩石で、自然遺産としての価値だけでなく、先住民アボリジニの文化的な聖地としての価値も認められ、複合遺産として登録されています。所在する大陸と、その場所が持つ歴史的・文化的意義を正しく理解する必要があります。
問5	答え 2 点描を用いた独自の芸術活動など、古くから受け継がれてきた伝統文化を大切に継承している	アボリジニは、イギリス人による植民地化が進むはるか以前からオーストラリア大陸で生活してきた先住民です。彼らは過酷な歴史を経験しながらも、自分たちのアイデンティティとして伝統的な点描画や音楽などの文化を現代に受け継いでいます。選択肢にある「ハカ」はニュージーランドの先住民マオリの文化であり、また点描画はヨーロッパから持ち込まれたものではなく、彼ら独自の伝統に基づいたものです。
問6	答え 3 タロイモや肉をバナナの葉で包み、地中の熱などを利用して蒸し焼きにする。	オセアニアの島々では、古くからタロイモやヤムイモを主食とする文化が根付いています。ハワイなどの地域では、地面に掘った穴に焼いた石を並べ、バナナの葉で包んだ食材を置いて蒸し焼きにする「イム」などの伝統的な調理法が受け継がれてきました。乾燥ジャガイモを戻す文化は南米のアンデス山脈、小麦粉の生地を用いる文化はユーラシア大陸、トウモロコシと唐辛子の文化はメキシコなどの中央アメリカに見られる特徴です。
問7	答え 1 南半球に位置し、日本とは季節が反対になる。	トンガは南半球に位置する国家であり、日本がある北半球とは季節が逆転しています。日本がかぼちゃの収穫ができない冬を迎えているとき、南半球のトンガでは収穫に適した時期を迎えます。この関係を利用することで、日本にとっては不足する時期の確保、トンガにとっては有利な条件での販売という利害の一致が生まれています。
問8	答え 4 地理的に近いアジア諸国の経済発展に伴い、貿易の軸足がヨーロッパからアジアへと移り変わった。	オーストラリアはかつてイギリスの植民地であった歴史的背景から、1960年当時はイギリスをはじめとするヨーロッパ諸国との貿易が中心でした。しかし、イギリスが当時の欧州共同体（EC）に加盟したことで関係が変化したほか、地理的に近い日本や中国などのアジア諸国が急速な経済成長を遂げ、鉄鉱石や石炭などの資源需要が高まったため、輸出相手国がアジア中心へと大きくシフトしました。
問9	答え 3 熱帯で手に入りやすい大きな葉を包材として活用し、食材の水分を逃さずに効率よく加熱するため。	伝統的な調理法は、その地域の自然環境や入手可能な資源を背景に発展しています。オセアニアではバナナのように大きな葉を持つ植物が豊富に自生しており、これを利用して食材を包むことで、蒸気と熱を逃がさずに蒸し上げることが可能になりました。この方法は、大規模な調理器具がなくても、焼いた石と地中の熱を利用して大量の食材を一度に調理できる合理的な仕組みです。
問10	答え 3 16世紀以降、スペインやポルトガルがこの地域を植民地として支配し、自国の言語や宗教を広めたため。	南アメリカ大陸は16世紀以降、主にスペインとポルトガルの植民地となりました。この植民地支配の過程で、本国の言語（スペイン語・ポルトガル語）や宗教（キリスト教）が強制、あるいは普及したことが、現在の南アメリカの文化的な特色を形作る要因となりました。ブラジルがポルトガル領、それ以外の多くの地域がスペイン領であった歴史が、現在の公用語の違いにも反映されています。
問11	答え 4 多文化社会	オーストラリアでは1970年代まで、ヨーロッパ系以外の移民を制限する「白豪主義」という政策がとられていました。しかし、労働力の確保やアジア諸国との経済的な結びつきを強める必要性から、この政策を廃止しました。現在は、多様な文化背景を持つ人々が共生する「多文化社会」の形成を国家の指針として推進しています。